

実践報告

中国における看図作文授業の改善

— 日中教育比較を通して —

仇 志美¹⁾

QIU Zhimei

キーワード：看図作文・看図アプローチ・アクティブラーニング・日中教育比較・授業改善

概要

看図作文は、文字通り「絵図を看（見）て」作文を書いていく指導法である。看図作文は、もともと中国で盛んに行われていた方法である。しかし、看図作文の発祥地中国では、看図作文に関する研究が少なく、理論化や効果的な授業方法の開発が遅れている。さらに中国では、看図作文の授業が形骸化している。これに対し日本では、鹿内らが、中国の看図作文に心理学や物語論などの研究成果を加えて、作文の授業をアクティブラーニング化する「新しい看図作文」を発展させている。「新しい看図作文」は中国においても発展しうる大きな可能性をもっている。そこで、本研究では、中国に「新しい看図作文」を逆輸入し、中国の作文授業をアクティブラーニング化していく方法を探る。

1. 問題の所在

近年、看図作文の発祥地中国では、看図作文に関する研究が少なく、理論化や効果的な授業方法の開発が遅れている。中国ではカリキュラム改革において、その編成基準が2001年に「教学大綱」から「国家課程標準」（以下、「課程標準」）に変更された。教学大綱も課程標準も日本の学習指導要領に相当するものである。それまでの「教学大綱」では、看図説話・看図写話・看図作文に関する説明がずっとあったが、課程標準では、「看図」に関する記述が消えている。しかし、中国の国語（語文）教科書の多くは、今も看図作文を取り上げている。このような不明確な状況の中で、中国における看図作文の指導は形骸化してきている。

例えば、中国のAmazonで「看図作文」を検索すると、コメントが一番多い本として2012年に出版された謝増煥・汪季明の『看図写話（1年生用）』が出てくる。そのコメントの中には次の

ようなネガティブなものが見受けられる。「この本はあまり役に立たない。とても機械的かつまらない。印刷もよくないし、何より子どもがこの本を嫌っている。」などである。このように、現在の中国では、「機械的かつまらない」看図作文指導が多く行われている。さらに、子どもの作文は想像力が欠けており、内容が単一であり、論理性もないという問題が指摘されている（楼珠凤，2008）。そのため学校では、いつも子どもたちから「作文を書きたくない」「また作文だ」などの不満の言葉が発せられている。

高巍（2011）は次のように指摘している。「このような看図作文の指導方法は活気がなくて、硬直化したものになってしまう。この方法では初めて作文を学ぶ子どもたちの創造力を抑えてしまうことになる。そこで、こういう伝統的な看図作文指導方法が結局すたれていくことになる。…こういう背景の下で、看図作文の固有の指導方法が変

1) 中国浙江省 寧波工程学院

わっていかなければならない。(pp.2-3)」このように、「看图作文」の指導は中国では形骸化している。しかし日本では鹿内らが、中国の看图作文に心理学や物語論などの研究成果を加えて発展させている。鹿内らの「新しい看图作文」の視点や方法には、中国の看图作文を改善していくための手掛りが多く含まれている。日本で「新しい看图作文」として発展しているように、看图作文は中国においても発展しうる大きな可能性をもっていると考える。

II. 研究の目的と方法

II-1 研究の目的

本研究の目的は、以下の二点である。

一つ目は、中国の伝統的な看图作文授業の問題点を明らかにすることである。二つ目は、中国で「新しい看图作文」を用いた授業実践を行い、「新しい看图作文」の理論と方法の有効性と可能性を検討することである。

II-2 研究の方法

研究 1：中国における看图作文授業の実際

方 法：文献研究により、最近の中国の看图作文の指導法とその問題点を整理する。また、代表的な教師の看图作文授業として、窦桂梅（2006）の実践を取り上げ、「新しい看图作文」の視点と方法に基づき、その問題点を明らかにする。

研究 2：中国の小学校で「新しい看图作文」の授業実践を行う

方 法：日本で発展している「新しい看图作文」の理論に基づき、中国の看图作文の改善に有効な授業案を作成し、実際に授業を行う。その授業分析から「新しい看图作文」の中国における有効性を明らかにする。

研究 1・2 を通して「新しい看图作文」の授業を中国に導入する可能性とその方法を検討する。

III. 研究 1－中国における看图作文授業の実際

III-1 中国の看图作文の授業法とその問題点

研究 1 では、これまでの中国の看图作文に関する文献をもとに「教師の発問とコメント」「絵図の研究とその活用」「授業法の理論化に内在する問題点」について検討する。

III-1-1 発問とコメントがおかしい

谢尚江（2011）は「可爱的“迪迪”（かわいいディディ）」という絵図（図 1）を用いている。そして次のように発問している。

「男の子のそばにいる動物は何でしょうか？
なんと可愛いことでしょうか！この子は何でそんなにうれしそうに動物を触っているのでしょうか？どんなことがあったのでしょうか？」

発問はこれだけである。まずこの発問について検討していく。

はじめに「動物は何でしょうか？」と発問している。これはあまりにも安易な発問である。この発問がなくても、子どもたちは「男の子のそばにいる動物」は「犬」であることを容易に理解できる。これは必要のない発問である。



図 1 可爱的“迪迪” 谢尚江（2011）より模写

次に「なんと可愛いことでしょうか」と発問している。このように言うことは、教師が子どもに代って絵図の読み解きをしてしまっていることになる。「この子が何でそんなにうれしそうに動物を触っているのでしょうか？」という発問も同様である。先生は「うれしそう」という読み解きを子どもたちに呈示してしまっている。このような発問は、子どもたちの想像力を制限してしまうので

はないだろうか。

最後の「どんなことがあったのでしょうか？」という発問にも疑問を感じる。絵図を読み解く方法を何も示さず、重要な発問をしまっている。これでは、多くの子どもたちは、作文を書けないのではないと思われる。中国の看图作文では、教師の発問の方法がまだ確立していないと言える。

III-1-2 絵図がおかしい

次に、方洲・徐林（2010）の「春」という絵図を使った看图作文指導方法を見ていく。

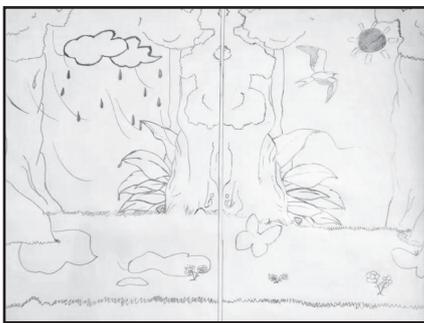


図2 春 方洲・徐林（2010）より模写

この絵図の左側には雨の風景が、右側には晴れの風景が描かれている。方洲らは、この絵図を呈示したあと、次の二つの発問をしている。

「二つの絵図はどんな違いがありますか？景色にどんな特徴がありますか？」

「想像してみて、雨の日と晴れの日、景色にはそれぞれどんな魅力がありますか？」

この指導法では、「絵図を読み解かせる」という発想が欠けている。子どもたちは、「雨の日と晴れの日、景色の魅力」について作文を書くことになる。このような作文は絵図がなくても書けるものである。

III-1-3 理論的な研究が生かされていない

次に紹介するのは秦兆基の「中学看图作文借鉴辞典」（2006）である。秦兆基はこの本は「中国で最初に看图作文について全面的、系統的に研究した辞典である」と述べている。この中に多くの看图作文の指導例が載っている。そのひとつを紹介していく。

紹介するのは、絵図「水开了！（お湯が沸騰した）」（図3）が用いられている授業である。

紹介するのは、絵図「水开了！（お湯が沸騰した）」（図3）が用いられている授業である。

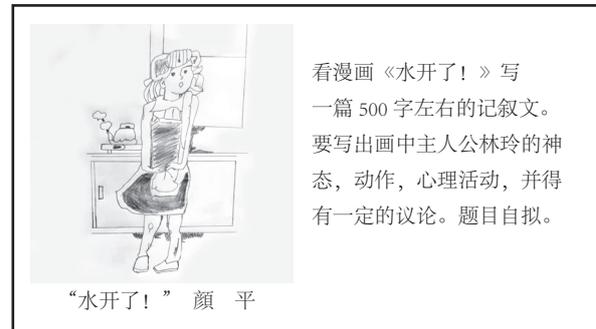


図3 水开了！（お湯が沸騰した）

秦兆基（2006）より模写

絵図の横にある説明を日本語に訳しておく。

漫画「水开了！」を見ながら、500字くらいの叙事文を書いてください。絵図の中の主人公—林玲の表情・動作・心理活動を書き出して、また一定の意見も文章に入れて下さい。題目は自由に決めてかまいません。

著者は看图作文「水开了！」について次のような指導方法を示している。

この絵図の中の人物を描写するために、最初は絵図の中の人物を生き生きさせる。そのための第一歩は、絵図の中のすべての内容を取り出す（読出）ことである：人物の驚いている目つき、開けている口、組んでいる手、硬直している足、噴出している炎、もうもうとしている蒸気…。次にこれらのことを適切に転換していく。たとえば、驚いている目つきは人物の心理活動に、開けている口は人物の言葉に、組んでいる手は人物の行動に転換することができる。最後に、想像を加えて適切な補充をする。そうしたら、絵図が生き生きとしてくる。

秦兆基が自ら述べているように、本書は、中国で初めて看图作文について系統的に研究した本である。そのため、これまで見てきた他の看图作文に関する本とは異なっている。たとえば、「驚い

ている目つき」を手掛りにして、心理状態の描写を促したり、「開けている口」から出てくる「ことば」を推測させたりしている。これは、明らかに絵図から文章を産出していくための「方法」を示している。このようなすぐれた研究もあるが、その後、中国での研究は発展していない。また、秦兆基の研究も生かされていない。

Ⅲ－２ 中国の代表的な看图作文授業の実践分析

Ⅲ－２－１ 目的

中国で代表的な教師の看图作文授業として、窦桂梅（2006）の実践を取り上げ、「新しい看图作文」と比較する。そのことにより窦桂梅（2006）実践の問題点を整理する。

Ⅲ－２－２ 分析対象

中国で代表的な教師の看图作文授業を分析する。代表的な教師の授業として、窦桂梅によるものを取り上げる。窦桂梅の略歴を示しておく。

窦桂梅：女，1967年生まれ。現職の清華大学附属小学の党総書記及び校長，清華大学教育研究科基礎教育研究所副所長。特級教師，博士課程担当教授。

窦桂梅の授業記録は窦桂梅（2006）に掲載されているものを用いる。この授業記録を分析対象とするのは、次の理由による。窦桂梅の授業実践は2003年に行われている。2003年は、SARSが流行した年であり、中国の多くの学校が休校となった。この時、中国中央教育テレビ局は、全国にテレビ授業を配信した。そのひとつとして、中国を代表する教師である窦桂梅が低学年向け看图作文授業を行った。実施された2003年は、すでに課程標準に切り替わっている時期である。しかし、なお教学大綱の精神を引き継いでいる時期である。このような時期に、全国的な統一モデルとして行われた数少ない授業のひとつである。以上の理由から窦桂梅のこの授業を分析対象とする。

Ⅲ－２－３ 分析の視点と考察

「絵図の工夫」「教師の発問」「教師による絵図の説明」という3つの視点から窦桂梅の授業を分析・考察していく。

絵図の工夫



図4



図5



図6

いずれも窦桂梅（2006）より模写

図4・5・6は窦桂梅（2006）の授業で使われた絵図である。授業で窦桂梅は次のように言っている。「先生が勧めた絵図を使わなくてもかまいません。自分が楽しみながら、想像できる絵図を使ってもいいです（p.296）」。

れた子どもたちは「楽しみながら想像できる」絵図を、どのようにして選んだらいいのであろうか。「楽しみながら想像できる」ように工夫された絵図を用意するのは教師の役割である。

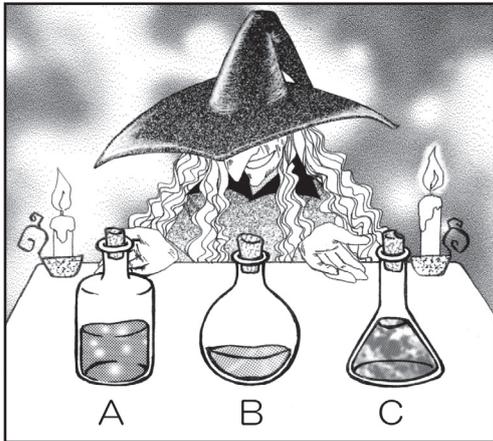


図7 「魔法使いのおばあさん」 ©yuki.ishida
鹿内 (2010) より

図7は鹿内の授業で使われる絵図の一例である。鹿内が用いる絵図は看图作文授業のために開発されたものであり、教師が「自分が楽しみながら、想像できる絵図を使ってもいい」などと言うことはない。図7の活用方法についてはここでは割愛するが、鹿内が使用する絵図は明確な発問系列によって段階的に読み解いていくことができ、作文につなげていけるものになっている。鹿内(2010)では、絵図の工夫と調達に関しては、「看图作文に適した絵図の条件」「絵図の呈示方法」「絵図の読み解きに必要情報処理」などが示されている。しかし、竇桂梅の看图作文授業では、そうした絵図に対する基本的な視点や工夫が確立していないといわざるをえない。

教師の発問

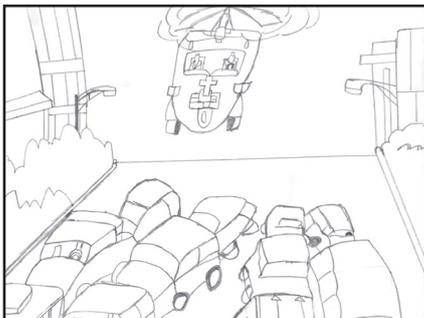


図8 竇桂梅 (2006) より模写

また、竇桂梅は図8を呈示し「最もあなたの注意をひいたのは何ですか (p.289)」「写真の中で一番目立つのは何ですか (p.290)」などの発問をしている。この発問は本当に必要なのだろうか。図8では、多くの子どもは空を飛んでいる車(ヘリコプター)に注意を払うはずである。竇桂梅の発問に対する答えの幅は狭い。竇桂梅の発問はクローズドクエスチョンになっており、子どもたちの想像や創造を引き出す力は弱い。教師は子どもたちの自由な想像を促し、想像を引き出すための発問を考えなければならない。そのために、鹿内(2010)の研究が参考になる。鹿内は「読解モード誘発発問」「フォーカシング発問」「想像力を引き出す発問」「対立発問」等の発問方法を提案している。

教師による絵図の説明

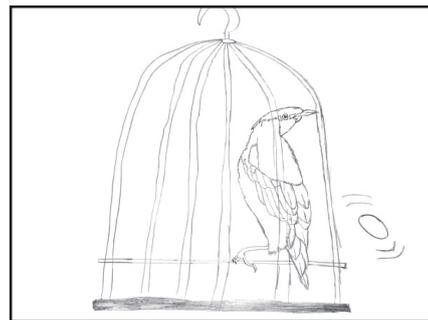


図9 竇桂梅 (2006) より模写

竇桂梅は図9を用いた授業で次のような説明をしている。「この図を見ると、私たちは、鳥かごにいる鳥は卵をかごの外に産んでしまったことがすぐわかります (p.292)」。ここで教師は絵図の場面を説明してしまっている。実は、中国の看图作文授業では、多くの教師は竇桂梅と同じように指示している。筆者(仇志美)が体験してきた看图作文の授業もこのようなものであった。このような説明は、子どもたちの思考範囲を制限してしまう。その結果、子どもたちは、ほぼ同じ物語をつくることになる。これに対して鹿内(2010)は、協同学習を取り入れ、子どもたちに個性的な作文を書かせている。さらに「インプット・アウトプット法」「疑問点列挙法」「オリエンテーション変更

法」等の新しい看图作文の方法も考案している。このような方法も中国の看图作文授業に取り入れていくべきである。

IV. 研究 2 - 中国の A 小学校での「新しい看图作文」授業実践

IV-1 目的

以上で整理してきた問題意識に基づき、日本で発展している「新しい看图作文」の方法を取り入れた授業を中国の小学校で試す。そのことによって「新しい看图作文」の授業を中国に導入する可能性とその方法を検討する。

IV-2 授業実践と分析方法

中国江蘇省 A 小学校で「新しい看图作文」の授業を行い、分析する。詳細は以下の通りである。

学習者・授業者・日時

【学習者】小学校 6 年生の 1 クラス 49 名（初めて「新しい看图作文」の授業を受ける）

【授業者】学級担任 Z（担任 Z は事前に「新しい看图作文」の理論と方法を理解した上で授業を行う）

【日時】2017 年 9 月 12 日（火）

8:15 ~ 10:05（1・2 校時、授業時間 80 分）

グループ編成

協同学習を行わせるため、グループを作った。子どもたちが自主的にグループを作って分かれた。クラス成員 49 名が、14 グループに分かれた。4 人グループが 9 組、3 人グループが 3 組、2 人ペアが 2 組できた。図 10 に各グループの座席配置を示しておく。

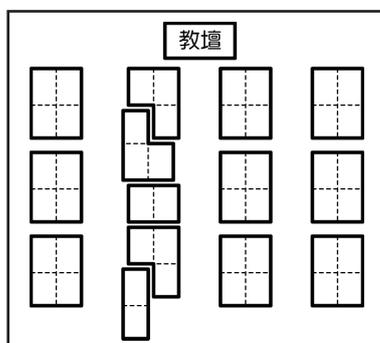


図 10 座席配置図

教材絵図

鹿内らが曖昧・空所・対立・欠落などを含むように設計した 3 枚の絵図「浦島」を使って授業を行う。国が違っても、絵図は子どもたちの日常生活と関連して、興味関心を引き出せると考える。また、絵図「浦島」は意外な展開があるので、「驚き」が予想される。この「驚き」は絵図に対する興味関心を高める。鹿内らが開発している絵図はすべて協同学習のツールとなる。このため、子ども同士が交流することにより作文をまとめていくことができる。石田（2010, 専門学校日本福祉リハビリテーション学院授業資料-未発表）は、次のような呈示方法も提案している。1 枚目の絵図を呈示したあと、2 枚目・3 枚目の絵図を想像させる。その上、2 枚目・3 枚目の絵図を呈示する前に、子どもたちがとても気になる部分を隠して呈示し想像させるステップを入れている。このように、絵図を呈示するところから動機づけ、「驚き」を「やる気」につなげる。さらに、協同学習で友達と交流することができる。

絵図呈示順序の工夫

絵図の呈示はプロジェクターによって行った。絵図上の「？」部分はマスキングしておき、授業の進行に応じてオープンしながら呈示する（呈示順序については次ページイメージ参照）。この呈示方法は前述した石田（2010）を参考にした。

留意点

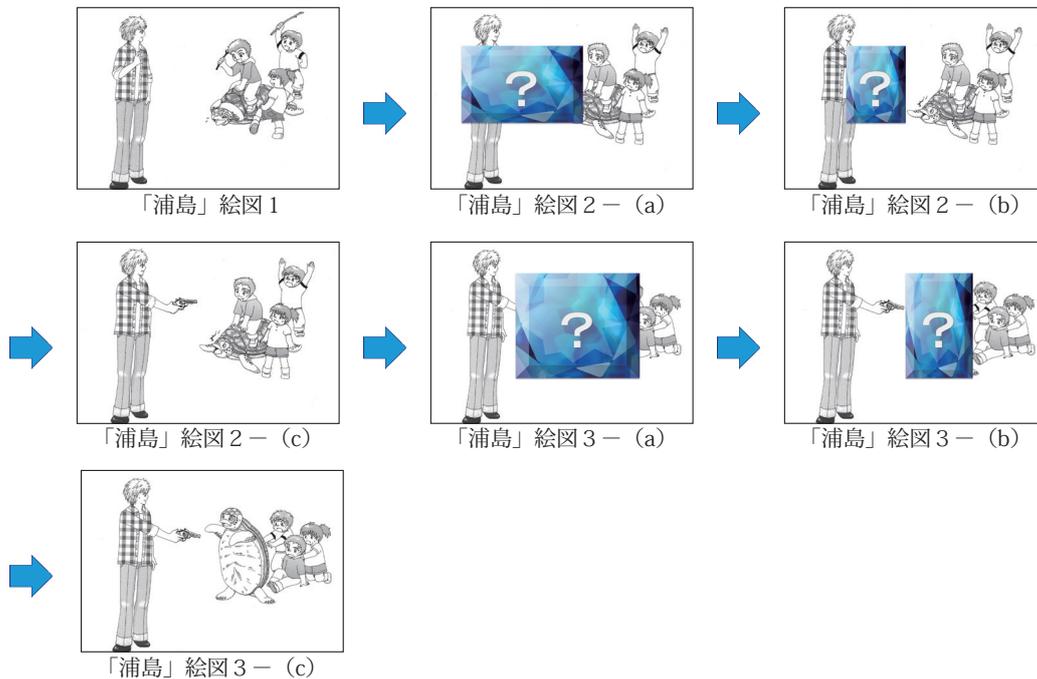
(i) 3 枚の絵図を一括に呈示するのではなく、1 枚ずつ次の絵図を予想させながら呈示することで、想像する楽しさを広げる。

(ii) 絵図 2・3 で、子どもに「えー!？」と言わせる仕掛けがしてある。この驚きを子どもの「考える力」や「やる気」に変えていく。

授業案

本研究のために授業案（次ページ掲載）を作成した。この授業案をもとに授業実践を行う。

絵図呈示順序イメージ



授業案

過程	児童の活動	△教師の支援		
導入 10分	<p>1. 目当てを説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看图作文」の「看」を理解する <p>2. グループを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前と後ろの机の4人グループをつくる（2人・3人でもいい） 	<ul style="list-style-type: none"> △黒板に目当てを呈示する △黒板に「看」を書く △グループ編成を確認する 		
展開 ① 25分	<p>1. 絵図1を呈示する</p> <p>2. 絵図に描かれた要素を言葉に変換する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図中に描かれている「もの」を10個以上書く。（個人思考） ・ラウンドロビンの進め方でグループで発表する。（集団思考） <p>3. 絵図1を見て、想像しながらどんな状況かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵図1に関する問題1・問題2に答える。ワークシートを活用する。（個人思考） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 問題1：誰が何をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀： </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 問題2：どんな表情をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀： </td> </tr> </table>	問題1：誰が何をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀：	問題2：どんな表情をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀：	<ul style="list-style-type: none"> △黒板に「個人思考」と「集団思考」を呈示する △全員が学習に参加できるように、ラウンドロビン（順番により回しながら一人1個ずつを発表すること。）の進め方をグループごとに説明する △作業の流れに戸惑っている子どもに配慮する
問題1：誰が何をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀：	問題2：どんな表情をしていますか。 ・男の人： ・こどもたち： ・亀：			

	<p>4. 絵図 1 の次の絵図を予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート中の問題 3 に答える。(個人思考) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 3 : この男の人は次にどうすると思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・答えを書き終わったらグループで討論する。バズセッションで行う。(集団思考) 	<p>△バズセッション(グループメンバーが誰からでも自由に発言し、「ワイワイガヤガヤ」と話し合っていく方法)を行う</p>
<p>展開 ② 10分</p>	<p>1. 絵図 2-(a) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスキングしてある部分(「?」部分)にどんな「こと」が描かれているか、根拠のある推論をする。(個人思考) ・各自の推論をバズセッションで発表する。(集団思考) <p>2. 絵図 2-(b) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスキングしてある部分(「?」部分)にどんな「こと」が描かれているか、根拠のある推論をする。(個人思考) ・各自の推論をバズセッションで発表する。(集団思考) <p>3. 絵図 2-(c) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート中の問題 4 に答える。(個人思考) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 4 : 絵図 2-(c) ではどんな「こと」が起っていますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで討論してから、クラス全体でシェアする。(集団思考) 	<p>△自由に発言させる</p>
<p>展開 ③ 10分</p>	<p>1. 絵図 3-(a) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスキングしてある部分(「?」部分)にどんな「こと」が描かれているか、根拠のある推論をする。(個人思考) ・各自の推論をバズセッションで発表する。(集団思考) <p>2. 絵図 3-(b) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスキングしてある部分(「?」部分)にどんな「こと」が描かれているか、根拠のある推論をする。(個人思考) ・各自の推論をバズセッションで発表する。(集団思考) <p>3. 絵図 3-(c) を呈示する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート中の問題 5 に答える。(個人思考) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題 5 : 絵図 3-(c) ではどんな「こと」が起っていますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで討論してから、クラス全体でシェアする。(集団思考) 	<p>△自由に発言させる</p>

展開 ④ 20分	ハッピーエンドの物語を書く ・絵図 1・絵図 2-(c)・絵図 3-(c)を使って、ハッピーエンドの物語を書く。 ・時間は 20 分である。	△3 枚の絵図 (絵図 1・絵図 2-(c)・絵図 3-(c)) を再び呈示する
展開 ⑤ 5分	友だちからコメントをもらう ・物語作文に対して、友だち 2 人以上からコメントをもらう。	

調査方法

【方法 1】作文分析

子どもたちが書いた作文を分析する。

【方法 2】学習者へのアンケート分析

授業前後に質問紙調査を行う。授業前（回収数 49 人分）と授業後（回収数 48 人分）

【方法 3】教師インタビュー

担任 Z にインタビューをする。インタビュー内容は IC レコーダーで録音する。

IV-3 結果と考察

本研究では、「認知目標」と「情意目標」という 2 つの視点で授業を分析する。「認知目標」とは、認知（知識・理解）に対する目標であり、この授業では、作文の質・内容を分析し、その達成度を見る。とくに作文の「独自性」について分析する。「情意目標」とは、情意に対する目標で、日本で「意欲・関心・態度」と呼ばれている目標である。これは、学習者へのアンケート分析によって子どもの意欲や関心、態度を評価し、その達成度を見る。さらに、授業を行ってくれた教師へインタビューをし、「新しい看图作文」の中国への導入可能性について総合的に考察する。

IV-3-1 作文の独自性に関する分析

本研究は、形式化している看图作文授業の改善を目的としている。形式化克服の手掛かりを得るために、日本で発展している「新しい看图作文」を中国の子どもたちに実施してみた。

まず確認したいのは、「新しい看图作文」が、中国の看图作文授業を改善していく可能性をもっているかどうかである。そこで、今回の「新しい看图作文」授業で産出された作文の「独自性」を評価してみた。「独自性」は「形式化」の対極にある特性であると考えたためである。独自性の評価は次の手順で行った。

今回の実践に協力してくれた中国の小学校で同じ 6 学年を担当している教師 3 人を評価者とした。3 人の教師たちには、6 学年の子どもたちが書いた作文を「よい作文だ」「普通の作文だ」「あまりよくない作文だ」の 3 段階で評価してもらった。評価バイアスを避けるため、評価する教師には、この評価の内容に関する情報は何も呈示しない。評価者 3 人中、2 人以上が「よい作文」と評価した作文を「よい作文だ」とした。

その結果、教師 A は 8 人、教師 B は 11 人、教師 C は 11 人の作文を「よい作文だ」として評価した（表 1）。

表 1 同じ学年の教師 3 人による作文評価

評価	教師 A	教師 B	教師 C
「よい作文だ」	8 人	11 人	11 人
「普通の作文だ」	39 人	32 人	35 人
「あまりよくない作文だ」	2 人	6 人	3 人

子ども全49人分のうち、7人の作文が教師2人以上によって「よい作文だ」と評価された。これは子ども全体の14.3%になる。「よい作文だ」と評価する場合には、その評価理由も書いてもらっている。

「よい作文だ」と評価された7人の作文に対する各教師の評価理由の中国語原文と日本語訳を次に載せておく(表2)。なお、日本語訳は本誌編集委員会鹿内信善によるものである。

表2 評価者3人中2人以上が「よい作文だ」とした作文の評価理由

作文	教師A	教師B	教師C
子ども①の作文	作者对故事中主人公的设定与 其他同学不同 ，有很 独特的想法 。 (この作者の主人公の設定の仕方は、他の子どもたちと違っている。とても独特な考え方をしている。)		想象力很丰富 ，故事情节的设定有 自己的思考 ，很有 特点 。 (想像力がとても豊かである。ストーリー展開に自分らしい〔=自己的〕考え方を反映させており、きわめて特徴的である。)
子ども②の作文	这个故事的展开很吸人眼球，最后以男孩的行动为切入点，成功解决了问题。作者观察很仔细，也很有 自己的想法 ，非常赞。 (このストーリー展開は人をひきつける。最後に男がとった行動が糸口になって問題が解決していく。この作者は非常にこまかく絵図を観察している。また、とても個性的な考え方をしており称賛に値する。)	想象力丰富 ，故事的内容和情节的发展都非常生动。 (想像力が豊かだ。ストーリー内容とプロットの展開は非常に生き生きとしている。)	小作者观察细致入微，想象合理，内容很精彩。 (この作者は、微に入り細にわたって観察している。想像は合理的であり、内容も精彩を放っている。)
子ども③の作文	观察仔细，抓住细节，有 自己的写作特点 。 (絵図の観察がこまかく、細部にわたっている。自分らしい作文になっており、特徴的である。)	作者 想象丰富 ，用词恰当，善于观察细节，文章的表达也非常生动，令人印象深刻。 (想像が豊かである。遣われている言葉も適切である。こまかなところまで観察がなされている。文章表現も生き生きとしており、読む人に深い印象を与える。)	
子ども④の作文	故事的结局很出乎人们的意料，内容合乎情理。 想法非常特别 。 (ストーリーの結末は、読む人の予想を超えたものだ。内容も理にかなっている。考え方が他の人と違い、特別だ。)	作者结合 自己的想象 ，联想故事中小朋友们的兴趣爱好展开了描写。很赞。 (作者は独自の〔=自己的〕想像を結びつけている。また、子どもたちの興味関心が描写されている。称賛に値する。)	

<p>子ども⑤ の作文</p>	<p>作者充分发挥了想象力，对图片有自己的理解，写得很不错。 (作者は想像力を十分に發揮している。絵図に関する独自の〔= 自己的〕理解をしている。書き方もすばらしい。)</p>		<p>小作者充分发挥想象，从在不同的角度出发，思考故事的发展情节，很有自己的想法。 (作者は、他の人とは違う角度からの見方を出発点とし、ストーリーの発展を考えている。とても独自な〔= 自己的〕考え方だ。)</p>
<p>子ども⑥ の作文</p>		<p>作者观察细致，用词合理并且想象力很丰富。文章表达清晰明了，使得整个故事很生动。 (作者はとても詳細に観察している。言葉の遣い方も合理的だし、想像力がとても豊かである。わかりやすい文章はストーリーを生き生きさせている。)</p>	<p>小作者有独特的思考能力。本文构思新颖，词语表达也恰到好处。 (作者は独特な思考能力をもっている。作文の構想も斬新である。言葉の遣い方も適切である。)</p>
<p>子ども⑦ の作文</p>		<p>不难看出，作者很擅长对人物进行心理描写，用词也很恰当。而且作者通过丰富的想象，描写出了图片上面没有的东西。写得很不错。 (作者は人物の心理描写が上手だ。言葉の遣い方も適切である。豊かな想像力によって、絵図中に描かれていないことまで書いている。とてもうまく書かれている。)</p>	<p>小作者观察非常仔细，对图片中的细节把握地很到位。尤其想象力丰富，内容生动，主旨明确，想法与众不同。 (作者は、絵図を非常に詳細に観察している。絵図の細部を把握するレベルも高い。想像力も豊かで内容も生き生きしている。主旨も明確である。考え方が他の人と違っている。)</p>

表2に載せた評価理由の中に「独自性」を表す言葉が含まれているかどうかを分析してみた。「独自性」を表すものとして次のような言葉が考えられる。まず「特別」。「特別」は「他と違うこと」に重点を置いて用いられる(『中日辞典』小学館電子版参照)。次に「想象力丰富」「想象丰富」「丰富的想象」。いずれも直訳すれば「想像力が豊かだ」の意味である。これらの言葉は、他者とは異なった想像をしている時に用いられる。さらに、日本語の「独自の」とほぼ同義に用いられるものに「自己的」と「独特的」がある。また「想法与众不同(考え方が他の人と違っている)」も独自性を表している。

以上の言葉が、表2の評価理由にどれだけ含まれるかを整理してみた(該当する言葉にはアンダーラインを付しておいた)。その結果、「よい作

文だ」と評価された7人の作文はいずれも、2人以上の評価理由に、上記の「独自性」を意味する言葉が含まれていた。つまり、今回の実践では、49人中7人の作文は独自性があるとみなせる。それは、全体の14.3%を占めている。

鹿内(2017)は「新しい看图作文」を行うと創造性心理学の想定している頻度(5%)をはるかに超えて独自性が高い作文がうまると述べている。今回の実践では、49人中7人(14.3%)の作文は「独自性」があるという評価を得た。「新しい看图作文」を行うと創造性心理学の想定している頻度(5%)をはるかに超えて独自性が高い作文がうまるということが本実践でも確かめられた。

IV-3-2 学習者へのアンケート分析

新しい看图作文授業を受けたことによる子どもたちの作文に対する意識の変化を分析するため、実践前・後に2回の質問紙調査を行った。

実践前アンケート

まず、実践前に行ったアンケートの結果をみていく。次のような内容となった。

質問1「作文が好きですか？」では、49人のうち、21人の子どもは作文が好きという結果であったが、「普通」と「好きではない」を選んでいる子どもは28人だった。半数の子どもはあまり作文を書くことを好んでいないと言える。

質問2「看图作文授業を受けたいですか？」の結果として、49人のうち、39人の子どもは「受けたい」と回答した。「普通」と回答した子どもは10人だった。

質問3「絵図がない作文と看图作文はどちらか書きやすいと思いますか？なぜそう思いますか？」では、「絵図がない作文は書きやすい」と思っている子どもが6人いた。その理由として次のことが書かれていた。ある子どもは、「自分は想像力が乏しいので絵図をどう見るのかわからない」と述べていた。また「絵図の意味を理解するのは間違いやすい」「絵図を理解するのは面倒である」という回答もみられた。

しかし、絵図の意味は、間違いあるいは正しいという基準で判断されるものではない。人によって理解が異なるのは当然のことである。残念なことに、現在の中国の看图作文教育では、絵図の意味の理解はほぼ一つしかない。いわゆる「正しい理解」というのはいつも先生の理解あるいは教材の標準の答えである。さらに、本来、看图作文は絵図に描かれているものだけを書くのではなく、絵図によって自分の想像力を発揮して、自分が好きなことを書くものである。

実際に、「絵図がない作文は書けることがもっと多い」、「絵図を見て作文を書く時、書ける文字が少ない」と書いた子どももいた。中国の看图作文では、子どもたちは絵図上に描かれた表面的なことだけに注目させられている。これによって子

どもの考え方が広がらず、思考が制限されているといえる。そのため、子どもたちは絵図があることでうまく書けないと感じているのだと考えられる。

実践前のアンケート調査結果は、今の中国の看图作文における指導方法の問題点を示していると考えられる。そこで、子ども達のやる気を引き出すため、「正しい理解」を重視するのではなく、想像力を発揮して絵図を読み解く活動を引き出す工夫が必要である。

実践後アンケート

次に実践後に行ったアンケート結果をみていく。次のような内容となった。

質問1「今回の看图作文の授業はどうでしたか？その理由」の答えとして、48人中47人の子どもは「今回の授業はおもしろかった」と回答していた。(授業を受けたのは49人だが、実践後アンケートを回収できたのは48名であった。)

質問2「またこのような看图作文授業を受けたいですか？」では、48人のうち、44人の子どもは「受けたい」と回答した。「普通」と回答した子どもは4人だった。

実践前・後の2回の質問紙調査の結果を比較すると、実践前の「看图作文授業を受けたいですか？」の結果として、39人が「受けたい」、10人が「普通」だった。実践後の「またこのような看图作文授業を受けたいですか？」に対する答えは、44人が「受けたい」、4人が「普通」であった。この数だけで判断するのは難しいが、看图作文の授業を受けたい子どもは5人増えていた。アンケートで、子どもたちは「受けたい」「楽しかった」「おもしろい」などの表現をしていた。子どもたちは「新しい看图作文」の授業の形が好きだと言えるのではないだろうか。

しかし、アンケート分析により、一部の子どもは絵図を理解することに苦手意識をもっていたこともみられた。それは、普通の授業場面で作文にも正解があるという作文指導がなされており、子どもが自由に発想することに重点が置かれていないためではないかと考える。

IV-3-3 教師へのインタビュー分析

授業が終わってから、担任Zにインタビューをした。以下の質問に対して担任Zは次のように答えている。

Q1：この授業に対して、先生が一番印象に残っていることは何ですか？

- ・一番印象に残っていることは、子どもたちの活動が多いこと。
- ・子どもたちの発言も積極的で、授業の雰囲気も自由です。
- ・この授業は本当に私たちも提唱している「児童を中心にする」ということを体現しています。

Q2：普段の看图作文指導方法とは何か違うと思いますか？

- ・普段、私たちも授業中で討論させる形もありますが、いつも集団交流をやっていきます。少人数のグループではないです。少人数のグループは全体の子どもの考え方を制限しません。
- ・絵図の呈示する方法も違います。私たちはいつも複数の絵図を一緒に呈示します。
- ・また、普段の看图作文はまず子どもたちに絵図を見せて、絵図の中にあるものを交流させます。想像させる部分が少ないです。その後、一般的には宿題として家に帰って書かせます。授業中だけでは子どもたちは書けなくて、時間が足りません。

Q3：この授業方法のいいと思うところがあれば、教えていただきたいです。

- ・子どもの想像力をたくましくすることができます。
- ・授業がとても活発になりました。
- ・子どもたちも授業中に発言する意欲がありました。
- ・討論する機会が多いので、子どもたちも勇敢に自分の本当の考え方を表現できるようになりました。

Q4：この授業方法の良くないと思うところがあれば、教えていただきたいです。

- ・とてもいい方法だと思います。改善するところがまだ発見できません。

また、授業の後、担任Zは次のように言っていた。

うちのクラスの子どもたちが作文の授業でこんなにうれしそうにしている様子を今日初めて見ました。また、「個人思考—集団思考」を強調しているのはこの授業の特に優れた点であると思います。さらに、ハッピーエンドの設定とコメントのつけ方などの方法から見ると、この授業は本当に子どもたちの発達段階に注目していることに私は深い感銘を受けました。

このインタビューから、担任Zは「新しい看图作文」を用いた授業に関心を示し、積極的に評価しているといえよう。担任Zは子どもたちが意欲的に発言し、作文を書いていたことに驚いていた。筆者は、2017年6月に同学級で「新しい看图作文」の授業をしてもらうための相談に行った。そのとき担任Zは興味を示し、事前に「新しい看图作文」について学んだ上で今回の実践が実現した。しかし、担任Zにとって、想像以上の成果が見られたのではないかと考える。

とくに、これまで学習不振児とみていた子どもが作文を書いたことは大きな衝撃だったのではないと思われる。写真1はこの子どもが書いた作文である。日本語訳も添付しておく。

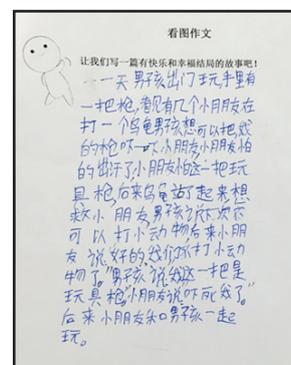


写真1

作文

ある日、男の子が外に遊びに行った。男の子は手にピストルを持っている。ちょうどその時、この男の子は子どもたちがカメをいじめている場面を見た。

男の子は「子どもたちを私のピストルで脅そう。」と考えた。子どもたちはピストルを怖がってびっくりした。あせも出てきた。その後、カメが子どもたちを救うために立ち上がった。その時、男の子は子どもたちに警告を与えた。「今度、動物たちをいじめたら許さないぞ。」子どもたちは、「はい。わかりました。私たちはこれから、絶対動物をいじめることをしなさいです。」と答えた。

男の子は笑いながら、「これはおもちゃの銃だよ。」と言った。

子どもたちは信じられない様子で「うそ！超怖かったです。びっくりしましたよ。」と言いました。それから、この男の子と子どもたちは仲良くなってよく一緒に遊ぶようになりました。

担任 Z は普段の看图作文の授業について、「授業中だけでは子どもたちは書けなくて、時間が足りない。」と話していた。しかし、今回の授業では作文を書く時間は 20 分だけであるにもかかわらず、全員が作文を書いていた。「子どもたちが書けない」のではなく、書くための指導の工夫が求められているといえよう。しかし、これまでの作文指導では「子どもが書けない」と、書けないことは子どもの意欲や能力のせいとされてきたのではないだろうか。この点に配慮して中国の伝統的な看图作文指導方法を改善していかなければならないと考える。

中国でも「子ども中心」の教育改革がすすみつつある。中国では「素質教育」というスローガンのもとに、「教え込み教育」を克服するための方法が模索されている。そのためには、子ども同士のコミュニケーションを大切にすることが必要だと考える。看图作文では、作文の指導だけではな

く、協同学習による子ども同士の学び合いが重視され、発言が活かされる。

中国の教育に「新しい看图作文」を導入していくことは、中国の「素質教育」にも寄与するところ大であると考えられる。

V. 今後の課題

本研究では、子どもたちの生き生きした学習の様子が観察できたが、一回だけの授業、一校だけの授業であり、さらに研究が必要である。とくに「新しい看图作文」を中国の小学校の日常的な国語授業で活用するための取り組みは今後の課題である。そこで、日本の「新しい看图作文」の理論と方法に基づき、中国における日常的な国語の授業で実施できる看图作文の授業づくりの具体化・理論化が求められる。さらに、看图作文の指導だけでなく、看图アプローチの可能性を中国で国語教育以外の重要な教育領域にも広く発信していくことが看图作文の普及の上でも求められるだろう。

日本では平成 29 年告示学習指導要領で、子どもの創造的で対話的な深い学びが重視されているが、中国でも「素質教育」の推進に伴って、同様の学びの質が求められていこう。そうした授業実践を担う教師の育成が重要になると予想され、今後、中国における「新しい看图作文」実践普及のための理論と方法をさらに研究していきたいと考えている。

謝辞

本研究は福岡女学院大学大学院人文科学研究科発達教育学専攻に提出した修士論文の一部を加筆修正しまとめ直したものである。修士論文をまとめるにあたり懇切にご指導頂きました猪狩恵美子教授に厚く御礼申し上げます。猪狩先生の専門分野は特別支援教育ですが、たくさんの手掛かりを頂きました。とくに、私は日本語能力がまだ不足していますため、普段のコミュニケーションまで、猪狩先生には、日本語をたくさん指導して頂きま

した。また、修士論文の作成にも繰り返し、明晰かつ厳密に、そして丁寧で温かいご指導を頂きました。本当にありがたく思っております。猪狩先生には、心から感謝申し上げます。

私にとって、日本で中国の看図作文を研究している鹿内信善先生（前福岡女学院大学教授）と出会えたことはとても幸いなことであったと思っています。鹿内先生が私を大学院に導いてくださったことに始まり、研究の初歩から修士論文の作成・今後の進路まで辛抱強くご指導頂いています。

私は初めて「新しい看図作文」と出会った時、看図作文が大きな可能性をもっていることに驚きました。鹿内先生の「新しい看図作文」は自分が子どもの頃学んだ看図作文とは全然違っていると感嘆しました。その時から、「新しい看図作文」に深い興味をもってきました。しかし、中国の看図作文に関する先行研究をいくら調べても、なかなか見つかりませんでした。看図作文はわれわれ中国人に捨てられる危機に瀕しているのです。「本当にもったいない。」と思いました。そこで、私自身が小さな力ではありますが、日本の「新しい看図作文」を参考にして、中国の看図作文の発展に有効な一歩になるように努力したいと考えました。今も考えています。

鹿内先生のもとで、「新しい看図作文」の理論と方法をたくさん学びました。それ以外にも、今日まで研究の道及び生活の面でもたくさんのごことを教えて頂き、私にとって何にも替え難い貴重な財産となりました。このご縁に心から感謝しています。

今回の研究では、実際に中国で授業を行えたことがとても大きな成果でした。お忙しい中での突然のお願いにもかかわらず、快くご承諾頂いた小学校の校長孫万軍先生、授業をして頂いた陳尧先生のご理解があったからこそその実現でした。そして、クラスの子どもたちは授業を積極的に受けてくれました。また、授業中、たくさん手伝って頂いた先生方や、子どもたちの作文を評価して頂いた先生方のご協力もありました。ここに、中国でご協力頂いたすべての皆様に深謝の意を表します。

引用・参考文献

【日本語の論文・著書】

- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ—絵本づくり授業実践の報告—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 1号（創刊号） pp.2-15
- 伊藤公紀・兒玉重嘉・石田ゆき・鹿内信善 2010 「看図作文の新たな展開—イメージを生成する力とそれを読み解く力を育てる—」『札幌大学総合論叢』 第29号 pp.75-97
- 伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善 2014 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善（X）—『産業景観』を教材とした『くらしと景観』授業の追実施—」『道都大学紀要 美術学部』 第40号 pp.57-67
- 伊藤裕康・伊藤公紀・石田暁子・鹿内信善 2016 「外国人留学生を対象にした看図作文授業の試み」『道都大学紀要 美術学部』 第42号 pp.49-56
- 項純 2013 「現代中国における教育評価改革—素質教育へ模索と課題—」 日本標準
- 増谷梓・阿部ゆかり・手塚清貴・田中瑞穂・鹿内信善 2017 「聾学校小学部での看図作文の実践—日本手話を活用した日本語指導—」『福岡女学院大学紀要 人間関係学部』 第18号 pp.99-109
- 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業』 春風社
- 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領』 溪水社
- 鹿内信善 2013 『協同学習ツールのつくり方—いかし方—看図アプローチで育てる学びの力—』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善・李軍 2014 「看図作文の教育史と今後の展望」『北海道教育大学紀要 教育科学編』 第65巻 第1号 pp.17-31

- 鹿内信善・山下雅佳実 2017 「看图アプローチの基礎とその面白さ」『看護人材育成』第14巻 第1号 pp.90-95
- 鈴木有香子 2013 「看图作文と協同学習のコラボ—国語科単元学習授業への発展を図る—」『日本協同教育学会第10回大会プログラム』pp.66-67
- 高橋誠(編著) 2002 『新編創造力事典』日科技連

注1:研究の一部は第15回日本協同教育学会で発表した。

注2:本研究を行うにあたり、福岡女学院大学研究倫理委員会の承認を得ている。

【中国語の論文・著書】

- 窦桂梅 2006 『听窦桂梅老师讲课』华东师范大学出版社
- 方洲・徐林 2010 『名师手把手小学生看图作文2-3年级适用』华语教学出版社
- 高巍 2011 『小学生看图作文思维模型培养研究[D]』四川师范大学学位论文
- 楼珠凤 2008 农村小学低段学生看图写话现状分析及对策研究『习作讲坛』13 pp.41-43
- 秦兆基 2006 『中学看图作文借鉴辞典』语文出版社
- 谢尚江 2011 『小学生趣味看图作文状物篇 小学1-3年级适用』江苏美术出版社
- 谢增焕・汪季明 2012 『看图写话(1年级)(新版)』上海远东出版社
- https://www.amazon.cn/dp/B00661XZ2M/ref=sr_1_4?s=books&ie=UTF8&qid=1493189463&sr=1-4&keywords=%E7%9C%8B%E5%9B%BE%E5%86%99%E8%AF%9D
- 中华人民共和国教育部 2001 『全日制义务教育语文课程标准(实验稿)』北京师范大学出版社
- 中华人民共和国教育部 2012 『义务教育语文课程标准(2011年版)』北京师范大学出版社
- 张庆・朱家珑 2016 『义务教育课程标准实验教科书(小学语文新编教材1-6年级)』江苏凤凰教育出版社

2021年11月1日受付

2021年12月10日査読終了受理